

日本の生協の  
2030年ビジョン  
(一次案)

# つながる力で 未来をつくる — CO・OP 2030 —



2030年ありたい姿のイメージ



日本生活協同組合連合会  
2030年ビジョン検討委員会

## はじめに

2030年ビジョン検討委員会では、2018年3月より、5回にわたる公開学習会、欧州の協同組合や中国の流通最新事情などの調査活動、地連単位で開始した組合員と職員によるワークショップなどを経て論議を重ねてきました。とりわけ、全国6カ所で開催したワークショップでは、500名以上の参加で、わくわくと夢を膨らませながら、ありたい姿を語り合いました。

2019年1月開催の全国方針検討集会では「素案」を提起し、参加者全員によるワークショップで論議いただきました。これらを通していただいた多くの意見と想いをベースに、このたび「日本の生協の2030年ビジョン（一次案）」を作りました。この一次案では、ビジョンを「つながる力で未来をつくる」というメッセージで表現しています。また、言葉だけでなく、そのイメージも表紙で表現してみました。

2020年6月の通常総会に向けて、引き続きビジョンの論議を深めるとともに、具体化するための中期方針の論議も始まります。

ビジョンづくりは、出来上がりの形だけではなく、作り上げていくプロセスが重要です。未来について語り合い、その想いを紡いでいくことこそがビジョンづくりの意義でもあります。日本の生協の未来を、また、それぞれの地域の生協の未来を、ともに描いていきましょう。

2030年ビジョン検討委員会 委員長 木田 克也

## 目次

|                           |    |
|---------------------------|----|
| ▶ 日本の生協の2030年ビジョン（一次案）    | 3  |
| めざすもの                     | 4  |
| めざすものを実現するために             | 5  |
| ▶ 日本の生協の2030年ビジョン（一次案）Q&A | 6  |
| ① 生涯にわたる心ゆたかな暮らし          | 7  |
| ② 安心して暮らし続けられる地域社会        | 9  |
| ③ 誰一人取り残さない、持続可能な世界・日本    | 10 |
| ④ 組合員と生協で働く誰もが生き活きと輝く生協   | 11 |
| ⑤ より多くの人々がつながる生協          | 12 |
| 資料編                       | 13 |

## 日本の生協の2030年ビジョン(一次案)

# つながる力で 未来をつくる — CO・OP 2030 —

私たちは、2011年、日本の生協の2020年ビジョンで「人と人がつながり、笑顔があふれ、信頼が広がる新しい社会の実現」をめざすことを確認しました。この10年間、組合員のふだんの暮らしを支えるとともに、社会の直面する様々な問題に向き合い、協同の力で社会的な役割を果たしてきました。震災復興支援をはじめとした様々な取り組みにより、人と人との「つながり」や「たすけあい」が着実に日本社会に根づき広がってきています。

いま、世界は気候変動の脅威にさらされており、自然災害が増加しています。絶えない紛争、格差の拡大、飢餓や貧困などの問題を抱え、お互いを尊重し合う社会から遠ざかっているとも危惧されています。日本においても格差と貧困、とりわけ子どもの貧困が大きな問題となっており、さらに、人口減少、高齢化、地域格差の広がりにより、生活インフラの維持が困難になる地域が増えています。

2015年、国連の場で持続可能な開発目標(SDGs)が採択されました。世界中の国々、企業や団体が共通の目標として掲げ、取り組みを強化しています。私たちも2018年、「コープSDGs行動宣言」でSDGsの実現に貢献することを約束し、「生協の21世紀理念」で掲げた持続可能な社会の実現に向けて取り組みをさらに加速しています。生協は、市民が参加する事業を通じて暮らしの願いを実現し、社会的な問題解決のために活動し続けてきました。この協同の社会システムの広がりが、お互いに認め合い助け合う関係をつむぎ、笑顔あふれる社会を実現していく力となります。

組合員と生協で働く誰もが生き活きと輝く生協をつくりあげ、「生涯にわたる心ゆたかな暮らし」、「安心して暮らし続けられる地域社会」と、「誰一人取り残さない、持続可能な世界・日本」の実現をめざし、日本の生協の2030年ビジョンを掲げます。私たちは、それぞれの地域で世帯の過半数を超え、より多くの人々がつながる生協をつくりあげ、新たな挑戦の10年へと踏み出します。

# めざすもの

## ① 生涯にわたる 心ゆたかな暮らし

私たちは、食を中心に、  
ひとりひとりの暮らしへの役立ちを高め、  
誰もが生涯を通じて利用する事業をつくりあげます

- 作り手の想いをつなぎ、安心と信頼の食生活を支えます。暮らしを見つめ商品をみがき、持続可能な生産と消費の実現をめざします。
- 「食の安全」について社会をリードするとともに、「食と健康」の取り組みを深めます。
- 家族のあり方や働き方など、ひとりひとりの暮らしの変化への対応を進め、あらゆる世代や世帯が利用できる事業を確立します。
- 人生100年時代を見据え、事業を効果的に組み合わせ、生涯のライフステージを通じて、切れ目やすき間なく、暮らしを支えます。
- 暮らし・社会の変化に着目し、技術の進化も果敢に取り入れながら、事業革新を図り、新たな事業にチャレンジします。



## ② 安心して暮らし続けられる 地域社会

私たちは、生活インフラのひとつとして、  
地域になくてはならない存在となり、  
地域のネットワークの一翼を担います

- 地域の多様な人々、諸団体・協同組合や行政とともに、地域社会づくりを進め、地域の課題解決に取り組みます。
- 誰もが気軽に立ち寄れて、出会い、つながれる居場所や拠点をつくり、地域の中で助け合い・困りごとを解決する場を広げます。
- 障がい者や高齢者など、社会的に弱い立場に置かれた人々を地域全体で支え、福祉の担い手として役割を発揮します。
- 地域の人々が関わり見守りながら子育てできる環境をつくり、すべての子どもが夢を持って笑顔でくらす社会づくりを進めます。
- 暮らしを支えるとともに、人々がつながり助け合う場づくりを広げ、災害にも強く復元力のある地域社会づくりに役割を発揮します。



## ③ 誰一人取り残さない、 持続可能な世界・日本

私たちは、世界の人々とともに、  
持続可能で、お互いを認め合う  
共生社会を実現していきます

- 省エネルギーや、再生可能エネルギーの利用・普及を進め、地球温暖化対策を推進します。
- 地域での活動を積み重ね、政策を提言し、世界の人々とともに、格差や貧困・飢餓のない社会の実現に貢献します。
- 被爆・戦争体験と平和への想いを次世代に継承し、世界の人々との対話を広げ、核兵器廃絶と世界平和の実現をめざします。
- ジェンダー平等(男女平等)や、多様な人々の共生など、ひとりひとりが大切にされる社会をつくります。





## ④ 組合員と生協で働く誰もが 生き活きと輝く生協

私たちは、ひとりひとりの組合員と  
生協で働く誰もが活き活きと輝く生協と、  
未来へと続く健全な経営を実現します

- 組合員ひとりひとりの関心に基づき、くらしや地域を豊かにする活動を広げます。
- 生協の運営により多くの組合員が関わりを持ち、参加できる運営のあり方をつくりあげます。
- 生協で働く多様な仲間が生協の価値に確信と誇りを持ち、やりがいと希望を持って働きつづけられる職場を実現します。
- 安定的に剰余を確保できる健全な経営を確立し、事業・活動の持続性とともに新たな挑戦を追求し、未来へと展望を拓きます。

- 生協の運営により多くの組合員が関わりを持ち、参加できる運営のあり方をつくりあげます。

- 生協で働く多様な仲間が生協の価値に確信と誇りを持ち、やりがいと希望を持って働きつづけられる職場を実現します。

- 安定的に剰余を確保できる健全な経営を確立し、事業・活動の持続性とともに新たな挑戦を追求し、未来へと展望を拓きます。



## ⑤ より多くの人々が つながる生協

私たちは、  
より多くの人々がつながる生協をつくりあげ、  
連帯と活動の基盤を強化します

- より多くの人々がつながる生協をつくりあげ、人と人とのつながりから生まれる力を活かし広げます。
- 全国の生協が力を合わせ、エリアでの連帯を強化し、全国での共同をさらに発展させます。
- 生協の取り組みについて、社会とのコミュニケーションを強化し、生協への理解と共感を広げます。
- 生協に関わる法制度の見直しを含め、期待される役割を発揮するための社会的基盤を強化します。

- 全国の生協が力を合わせ、エリアでの連帯を強化し、全国での共同をさらに発展させます。

- 生協の取り組みについて、社会とのコミュニケーションを強化し、生協への理解と共感を広げます。

- 生協に関わる法制度の見直しを含め、期待される役割を発揮できるための社会的基盤を強化します。



# 日本の生協の2030年ビジョン(一次案) Q&A

「日本の生協の2030年ビジョン(一次案)」のキーワードや、補足説明が必要と思われる点について、Q&A形式でまとめました。

## Q1 「日本の生協の2030年ビジョン」は、「生協の21世紀理念」「コープSDGs行動宣言」などとの関係で、どのような位置づけのものですか？

A >> 「日本の生協の2030年ビジョン」は、「生協の21世紀理念」を踏まえて策定します。2030年ビジョンを具体化するものとして、今後、「中期方針」や「年度方針」を論議・策定していきます。  
また、「日本の生協の2030年ビジョン」と「中期方針」は、「コープSDGs行動宣言」とも連動しています。



## Q2 「それぞれの地域で世帯の過半数を超え、より多くの人々がつながる生協」とは、どのようなものですか？

A >> 2020年ビジョンでは、「それぞれの地域で過半数世帯の参加」をめざしました。全国平均の世帯加入率は38.1%となり(2018年度推計)、地方自治体との見守り協定など、地域の中での生協の位置づけも高まってきています。

「生涯にわたる心ゆたかな暮らし」「安心して暮らし続けられる地域社会」「誰一人取り残さない、持続可能な世界・日本」を実現するために、世帯加入率は、2020年ビジョンから一歩進め、「それぞれの地域で世帯の過半数を超え」を提起します。組合員だけでなく、行政・諸団体・協同組合・事業者・個人など、人と人とのつながりから生まれる力を活かし、めざすものを実現していきます。

## Q3 「生活インフラの維持が困難に」とありますが、具体的にはどのようなことですか？

A >> 生活インフラとは、日常の生活を支える基盤であり、具体的には、電気、ガス、水道、通信、交通、病院、福祉施設、役所、店舗、金融機関、学校、公園などがあげられます。2018年度全国生協組合員意識調査では、改善してほしい住環境として「食品や日用品を購入できるところ」「公共交通機関」「医療機関・福祉施設」が上位にあげられました。生協では、これまで買い物困難な地域への対応などの取り組みを進めてきました。2030年に向けて、地域の生活インフラ維持に生協がどのように関わっていくのか、さらに問われてきます。

## ① 生涯にわたる心ゆたかなくらし

### Q4 「生涯にわたる心ゆたかなくらし」とは、どのようなものですか？

- A >> 2020年ビジョンでは「ふだんのくらしへのお役立ち」を掲げていましたが、2030年ビジョン（一次案）では、人生100年時代を見据え、「生涯」をキーワードにしました。ひとりひとり、そして、人生のライフステージごとにくらしのあり方はさらに多様になってきます。「生まれてから生涯を終えるまで、モノだけではなく、心のゆたかさやすこやさがあるくらし」「技術の進歩で便利になりながらも、人間のあたたかみ、ゆとりなどがあるくらし」を実現したいと考えています。

### Q5 「食の安全をリード」とは、どのようなものですか？

- A >> 日本の生協は、食の安全についての消費者の願いを、自らの事業でかたちにするとともに、消費者組織として社会的に発信し、食の安全をリードしてきました。その結果、かつて生協が先進的に実践してきた取り組みは、社会的な基準や仕組みとして広がり定着してきました。今後も、その時代ごとに、食の安全をめぐる不安や課題は出てきます。生協は、消費者の立場から発信するとともに、自ら事業を展開する立場であることを活かした実践・問題提起をすることで、「食の安全」をめぐる議論や社会の仕組みづくりをリードしていきます。また、「食の安全」をめぐるのは、インターネットなどの普及により、情報量は膨大に増えているものの、消費者が信頼できる確かな情報を見極めることは容易ではありません。リスクコミュニケーションについても、引き続き、生協の役割は大きいと考えます。

### Q6 「食と健康」の取り組みを掲げているのは、なぜですか？

- A >> 日本の生協は、これまで「食」の分野で事業・活動を積み重ねてきており、「食」は生協の強みです。人生100年時代を迎え、健康はますます重要な課題となっています。2018年度全国生協組合員意識調査では、生協の組合員は「食」や「健康」についての意識が高いことがあらためて明らかになりました。生協は、商品の提供だけでなく、様々な事業・活動や、他団体との連携により取り組みを広げられる可能性があります。

### Q7 「あらゆる世代や世帯が利用できる事業」を掲げているのは、なぜですか？

- A >> 若い世代の晩婚化・未婚化が進み、子どものいない夫婦なども増えている中で、これらの層の加入率はきわめて低い状況にあります。共済事業においても、子ども向け共済、大学生協共済、女性向け共済、終身共済などが広がる中で、学校卒業から結婚・出産までの間が途切れており、空白の世代となっています。また、高齢層でも、単身世帯は大きく増えていきます。今後、地域でより多くの人々が参加し、誰もが生涯を通じて利用する生協をつくりあげていくためには、若い世代や単身世帯・二人世帯などをはじめとして、あらゆる世代や世帯が利用できる事業を確立することが必要です。

**Q8**

**「人生100年時代を見据え、事業を効果的に組み合わせ、生涯のライフステージを通じて、切れ目やすき間なく、暮らしを支えます」とは、具体的にはどういうことですか？**

**A****》**

ライフステージごとに暮らしのニーズは変化し、必要な商品・サービスも変わってきます。ライフステージ間の切れ目、ニーズに対応できないすき間などをなくし、事業を効果的に組み合わせていく必要があります。「日本の生協の2030年ビジョン～テーマと論点～」では、生涯を通じたお役立ちのイメージ図の中で、子育て、共済、介護、宅配・店舗、夕食宅配、移動店舗などを例示しました。

どのような事業を展開していくかは、地域ごとの状況に応じて異なるため、2030年ビジョン(一次案)では具体的な事業名には触れていません。

なお、事業を総合的にあらゆる分野に広げるという意味ではありません。地域の実態に合った形で、生協の力を活かせる分野で展開していくことが大切です。

**Q9**

**「暮らし・社会の変化」や「技術の進化」とは、どのようなものを考えているのですか？**

**A****》**

暮らし・社会の変化では、従来からの「商品からサービスへ」「モノからコトへ」の流れに加えて、「所からシェアへ」の流れも出てきています。

技術の進化としては、AI(人工知能)、IoT(モノのインターネット)、スマートスピーカー、無人店舗、自動運転、ドローンなど、ICT(情報通信技術)に関わる技術が注目されます。ただし、これらは変化のスピードが速いため、2030年ビジョン(一次案)では、個別の具体的な言葉は入れていません。

**Q10**

**「新たな事業にチャレンジ」とは、どのようなものを考えているのですか？**

**A****》**

暮らしや社会が変化する中で、従来から取り組まれてきた購買事業、共済事業、福祉事業に加えて、組合員のニーズや社会の要請に応え、新たな事業がはじまっています。2017年度時点で葬祭事業は、全国53億円の規模となり、保育園、学童保育、学習塾など、子育て・子どもに関わる様々な事業が広がっています。電気小売事業(一般家庭向け)は、2018年12月時点で全国の生協の合計で新電力8位の規模になっています。ビジョンづくりのワークショップでは、2030年に向けてチャレンジしたい事業として、様々な事業が提案されており、それぞれの生協での意欲的な挑戦が期待されます。



## ② 安心して暮らし続けられる地域社会

### Q11 「地域のネットワークの一翼を担う」とは、どのようなものですか？

A >> 地域社会との関わりについて、2010年ビジョンでは「社会に開かれた組織」、2020年ビジョンでは「地域社会づくりへの参加」を掲げました。震災復興支援をはじめとして、生協は暮らしを支えるとともに、協同の力で社会的な役割を発揮してきました。

2030年ビジョン（一次案）では、地域社会への関わりをさらに進め、地域の中で「なくてはならない存在」として役割を発揮していくことをめざします。地域のネットワークにおいて、生協の役割は、地域や課題によって異なりますが、より責任ある役割を果たしたいという意味で、「一翼を担う」と表現しました。

### Q12 「誰もが気軽に立ち寄れて、出会い、つながれる居場所や拠点」は、どのようなものですか？

A >> ビジョンづくりのワークショップでは、地域において人と人とがつながれる場、気軽に立ち寄れる居場所づくりなどを進めていくべきとの提案が数多く寄せられました。そのイメージしている形は様々で、それぞれの地域の状況にあわせて、地域の人々がつながれる「場」づくりが大切になってきています。



### ③ 誰一人取り残さない、持続可能な世界・日本

#### Q13 「多様な人々の共生」とは、どのようなものですか？

**A** >> 近年、ダイバーシティ（多様性）という言葉が使われるようになってきました。性、年齢、国籍、民族、宗教、障がい、学歴など、様々な背景や価値観を持った人たちが、それぞれが持つ背景や価値観を尊重し、認め合える社会をつくっていくことが大切です。

2030年に向けては、外国人労働者の増加が見込まれています。働き手としてだけでなく、地域でくらす生活者としても、どのように共生できる社会をつくっていくかが課題です。

#### Q14 「被爆・戦争体験と平和への想いを次世代に継承し、世界の人々との対話を広げ」とは、どのようなことですか？

**A** >> 2030年には、被爆・戦争を体験した世代から直接話しを聞くことが難しい時代を迎えます。被爆・戦争の実相（実際のありよう）や、そのような歴史を経てかちえた平和と日本国憲法・平和主義への想いをあらためて共有し、次世代へと継承していくことがさらに重要になってきます。自立した市民の協同の力で世界の人々との対話を広げ、核兵器廃絶と世界平和の実現をめざします。

#### Q15 「災害にも強く復元力のある地域社会」とは、どのようなことですか？

**A** >> 生協は、東日本大震災をはじめとして、発災時にはいち早く支援に動き、支援物資のお届け、炊き出し、お見舞い活動、多様なボランティア、募金などに取り組んできました。また、被災地訪問やサロン活動など、息の長い支援、風化させない取り組みも続けてきました。

地球温暖化が進む中、自然災害はこれからさらに増えていく恐れもあります。災害への備えとして、平常時からの防災・減災の取り組みが大切です。また、災害に遭ったとしても、地域での結束力や解決力が強いと、被害が少なかったり、復興が早かったりすると言われています。このように、防災・減災とともに、復元力（回復力・レジリエンス）のある地域社会のことを、ここでは「災害にも強く復元力のある地域社会」と表現しました。

## 4

「ひとりひとりの組合員と生協で働く誰もが生き活きと輝く生協」とは、どのようなものですか？

2020年ビジョンでは、「組合員の誰もが参加しやすい元気な組合員組織」、「生協で誰もが元気に働ける職場づくり」「多様な人びとが働きつづけられる組織風土」を掲げていました。組合員活動では、共働きが増えて活動に参加しづらい組合員が増えています。職場では、人手不足が恒常化しており、育児・介護・高齢・障がい・病気など様々な事情がある中で働く人たちも増えています。今後の人生100年時代を見据えたときに、生協に、様々な価値観や背景を持った人たちが、また、多様なライフステージの人たちが関わり、ひとりひとりが活躍できる生協にしていけることが、より大切になっていくと考えます。

「生協の運営により多くの組合員が関わりを持ち、参加できる運営のあり方をつくりあげます」とは、どのようなものですか？

出資・利用・運営は、生協を支える3つの柱です。生協の規模が大きくなり、組合員の利用形態やライフスタイルが多様化する中で、機関運営をどのように適切に行えるかは、大きな課題です。特に、地域において大きな規模となっている組織として、適切なガバナンスがなされ、組合員及び社会に対して説明責任が果たされることが求められます。

2030年に向けた組合員の運営参加のあり方として、より多くの組合員が関わりを持ち、多様な組合員を代表する理事・総代が生協の方向性をつくっていくような、運営のあり方をつくりあげていくことが大切です。



## ⑤ より多くの人々がつながる生協

### Q18 「より多くの人々がつながる」とは、どのようなものを考えているのですか？

A >> 生協は、もともと「協同の力」によって、くらしの願いを実現し、社会的な問題解決をしていく組織です。2030年に向けては、「協同の力」をさらに強め、広げることが重要と考えます。ビジョンの1～4とも重なる部分もありますが、あらためて5番目に掲げました。「人々」には、組合員、職員、自治体、NPO、生産者、事業者、福祉施設、医療機関、地域住民など、多様な個人・団体を想定しています。

また、協同組合の課題としては、2018年に発足した日本協同組合連携機構（JCA）において、幅広い分野にわたる協同組合が持つ力を結集し、各地域での連携・協力活動をさらに進めていくことが重要です。

### Q19 「生協に関わる法制度の見直し」とは、どのようなものを考えているのですか？

A >> 生協を取り巻く環境が大きく変化し、地域社会における生協に期待される役割を発揮していくために必要な生協法の改正をはたらきかけていきます。また、これまで日本では、協同組合ごとに、生協法、農協法などの個別の法律が制定されてきましたが、あらためて協同組合の社会的存在意義を明確にするため、協同組合共通の法律についても課題として考えていきます。

以上





### 生協の21世紀理念（1997年日本生協連第47回通常総会で決定）

## 自立した市民の協同の力で 人間らしいくらしの創造と 持続可能な社会の実現を

- わたしたちは、「自立した市民の協同の力で 人間らしいくらしの創造と 持続可能な社会の実現を」を生協の21世紀理念とし、人類史的な社会の変革期に、なによりも人びとの幸せを大切にして行動します。
- 人びとの自立、自助をもとに、おたがいに助けあう新しい市民社会をつくってゆくことが必要です。日本社会にありがちな画一的集団主義から脱皮し、自主性、自発性、個性を大切にした社会運営が求められます。一人ひとりの人間には、年齢、性別、価値観などのちがひがあります。それらを認めあい、助けあって、人とひととが共生できる社会をつくることが求められています。

人間は、他の人との助けあひなしに、一人では生きてゆけません。私たちの目的はみんなの力を合わせてこそ、すなわち「協同」があつてこそ達成できます。

「自立と協同」は個人と社会の関係をあらわすだけでなく、生協間の関係をも律する原理です。また「自立と協同」は、全地球的に国や民族がお互いに認めあい、人とひととが共生できる社会をつくるために、そして自然との共生をはかるために、すなわち「持続可能な社会」を実現するために大切な原理です。

わたしたちは、利益追求が自己目的化し、資本力がすべてをきめる資本の論理ではなく、「市民の協同」こそ、「人間らしいくらしの創造と持続可能な社会の実現」をおしすすめる原動力であることを確信します。
- 人間らしいくらしとは、モノだけではなく、心の豊かさや、すこやかさ、ゆとりがあるくらしです。

そのためには、人間を大切にした、創造性ゆたかな経済・社会がつくられなければなりません。また、おたがいの多様な生きかたの選択・個性を認めあう人間関係や、一人ひとりが大切にされる、ふれあいとぬくもりのあるコミュニティの創造がなければ、人間らしいくらしは営めません。高齢者が安心してくらすことができ、若者たちが未来に希望をもち、子供たちがのびのびと成長できる社会の実現が必要です。

わたしたちは、人間らしいくらしや社会を、与えられるものではなく、みずからつくりだす目標としてかけます。生協運動は、人びとの経済的・社会的・文化的ニーズやねがいを、組合員がみずからつくる事業や活動をつうじて実現します。
- 地球環境をまもり、限りある資源を、自然との調和を大切にしながら有効に活用していくことは、いま人類にもっとも求められている課題のひとつです。21世紀以降も人類が地球の一員として生存し、自然と共生してゆくためには、リオ環境サミット「アジェンダ21」で強調された「持続的な発展」の共通課題を解決しなければなりません。そして、そのことを人類の共通の認識としてゆくことが求められています。

産業や生産中心につくられてきた社会を、人びとの消費を起点にした人間優先の社会につくりなおしてゆくことが必要です。それは、男女共同参画社会を実現するためにも必要です。さらには、科学万能という科学技術観、自然観をはじめ近代文明の価値観を見なおしてゆくことが求められています。それは、科学や技術を否定することではなく、人類の知恵の成果を環境保全型システムなど、人々の幸せのための新しい枠組みで有効に活用してゆくことを意味します。

「持続可能な社会の実現」のためには、国や民族をこえた協調が不可欠です。経済、政治、文化のグローバル化のもとで、人類共通のねがいである核兵器のない平和な地球を実現し、また南北問題を解決するために、生協運動の立場からの努力をつづけます。

## 私たち生協は、SDGs(持続可能な開発目標)

私たちは、「生協の21世紀理念(1997年総会決定)」のもと、助け合いの組織として誰も取り残さないというSDGsのめざすものは、協同組合の理念と重なり合っています。私たちは、以下の7つの取り組みをつうじて

### 持続可能な生産と消費のために、商品とくらしのあり方を見直していきます

私たちは、「つくる責任」と「つかう責任」の好循環を発展させ、持続可能な社会づくりをめざします。国内外の人々、そして限りある地球資源へ思いをはせ、商品の開発と供給を進めます。学習活動を通じて、エシカル消費や持続可能な社会に関する理解を促進し、私たち自らの消費行動やくらしのあり方を見直していきます。

《関連するSDGsの主たる目標》



**目標12(つくる責任、つかう責任)**  
持続可能な生産消費形態を確保する。

《関連するSDGsの目標》



### 健康づくりの取り組みを広げ、福祉事業・助け合い活動を進めます

私たちは、食生活、運動、社会参加の視点から健康づくりを進めます。安全・安心はもとより、より健康な食生活に向けた商品事業と組合員活動を推進します。生活習慣病や介護予防など「予防」を重視し、福祉事業や助け合い活動を広げ、自治体や諸団体と連携し、地域包括ケアシステムのネットワークに参画します。

《関連するSDGsの主たる目標》



**目標3(保健)**  
あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する。

《関連するSDGsの目標》



### 誰もが安心してくらし続けられる地域社会づくりに参加します

私たちは、誰一人取り残さず、安心してくらし続けられる地域社会づくりに参加します。自治体や諸団体との連携を大切にしつつ、地域の見守り、移動販売や配食事業など、生協の事業や活動のインフラを活用し、地域における役割発揮を進めます。

《関連するSDGsの主たる目標》



**目標11(持続可能な都市)**  
包摂的で安全かつ強靱(レジリエント)で持続可能な都市及び人間居住を実現する。

《関連するSDGsの目標》



### ジェンダー平等(男女平等)社会づくりを推進します

私たちは、地域における活動を通じて、社会のジェンダー平等と多様な人々が共生できる社会の実現に貢献します。女性も男性も、誰もが元気に、生きがいを持って働き続けられる生協づくりを進めます。

# SDGs 行動宣言

## SDGsに貢献することを約束(コミット)します。

誰もが笑顔でくらすことができ、持続可能な社会の実現をめざし、様々な取り組みを進めてきました。さらたためて持続可能な社会の実現に向けて取り組むことを、「SDGs行動宣言」としてまとめました。世界の人々とともにSDGsを実現していきます。

### 地球温暖化対策を推進し、再生可能エネルギーを利用・普及します

私たちは、地球の持続可能性を揺るがす気候変動の脅威に対して、意欲的な温室効果ガス削減目標(2030年環境目標)を掲げ、省エネルギーと再生可能エネルギーの導入に積極的に取り組みます。再生可能エネルギーの電源開発や家庭用電気小売を広げ、原子力発電に頼らないエネルギー政策への転換をめざします。

《関連するSDGsの主たる目標》



#### 目標7(エネルギー)

すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する。

#### 目標13(気候変動)

気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる。

### 世界から飢餓や貧困をなくし、子どもたちを支援する活動を推進します

私たちは、誰一人取り残さない世界をめざして、世界が抱える問題についての理解を深め、助け合いの精神を貫き、ユニセフ募金などに取り組み、世界の子どもたちを支援します。「貧困」の連鎖をなくしていくために、子どもの貧困について学び、話し合う活動を広げ、子ども食堂やフードバンク・フードドライブなどの取り組みを進めます。

《関連するSDGsの主たる目標》



#### 目標1(貧困をなくそう)

あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる。

《関連するSDGsの目標》



### 様々な人々が共生できる

《関連するSDGsの主たる目標》



#### 目標5(ジェンダー)

ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う。

《関連するSDGsの目標》



### 核兵器廃絶と世界平和の実現をめざす活動を推進します

私たちは、「核なき世界」の実現のために、世界の人々と手を携えて、核兵器を廃絶し、平和な社会をめざす取り組みを進めます。私たちは、次の世代に被爆・戦争体験を継承し、日本国憲法の基本原則である平和主義のもと世界平和の実現に積極的に貢献します。

《関連するSDGsの主たる目標》



#### 目標16(平和)

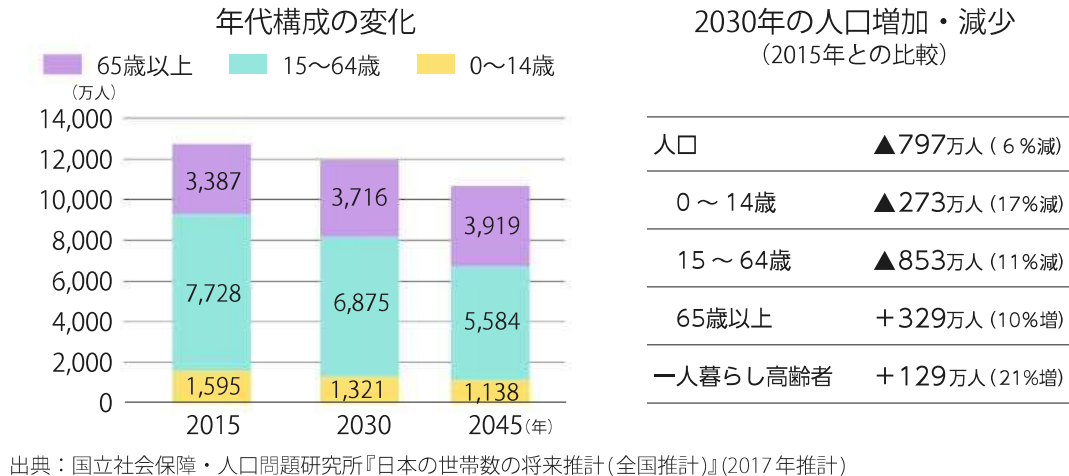
持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する

《関連するSDGsの目標》

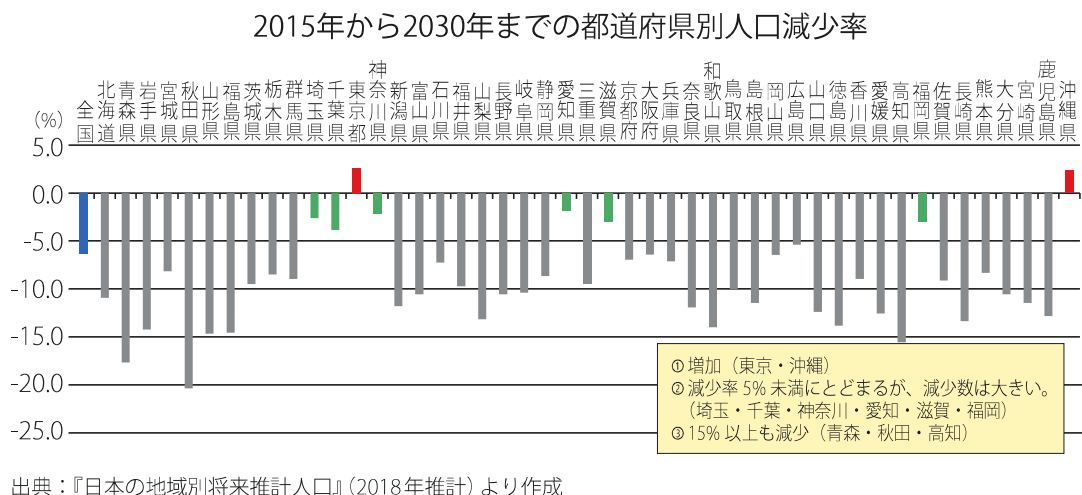


# 2030年を考えるデータ

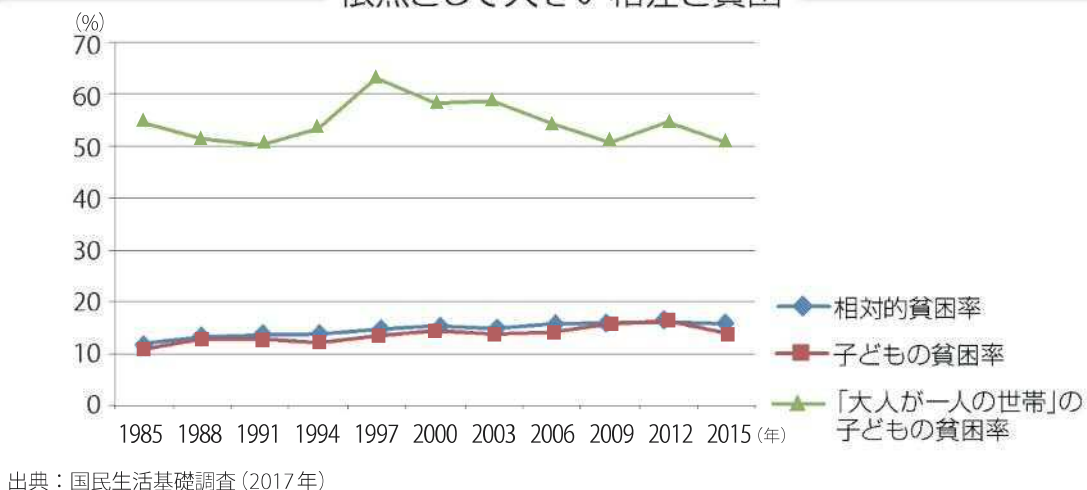
## さらに進む人口減少と高齢化



## 地域ごとの差が大きい人口変化



## 依然として大きい格差と貧困

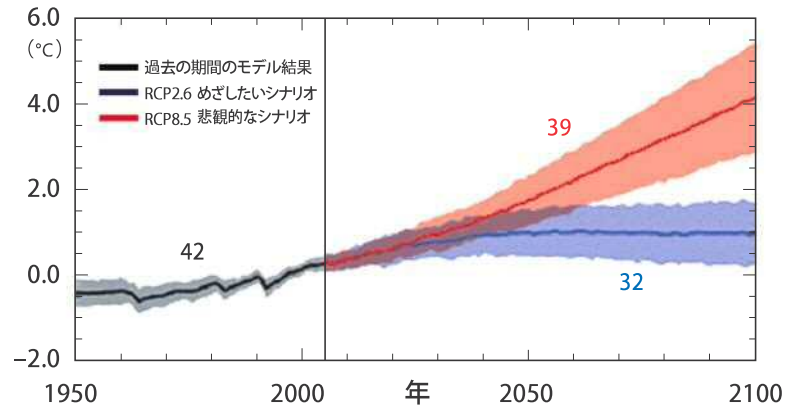




## このままではさらに進む地球温暖化

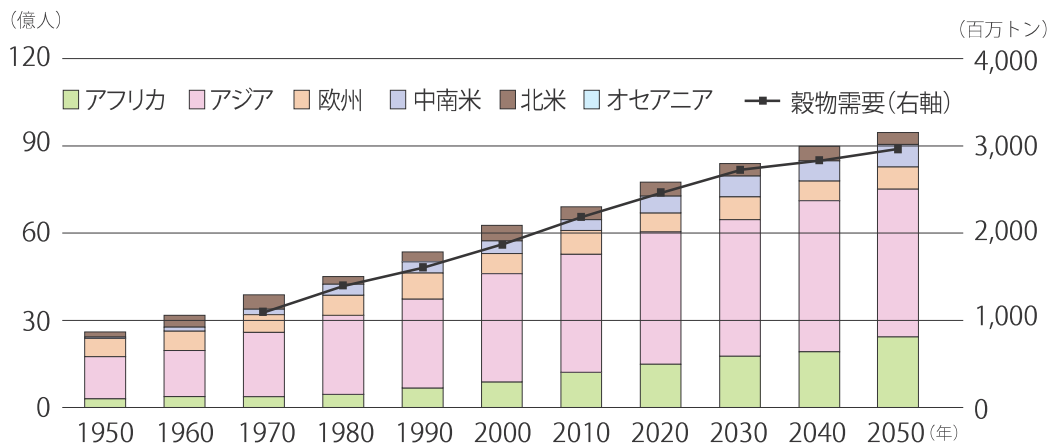
世界平均地上気温変化

※今後100年の気温上昇の予測。悲観的なシナリオ（RCP8.5）では、21世紀末と産業革命前を比べると4度の上昇が予測されている。気候変動による深刻な影響を抑えるためには、「2度未満」に抑えることが必要と考えられている。



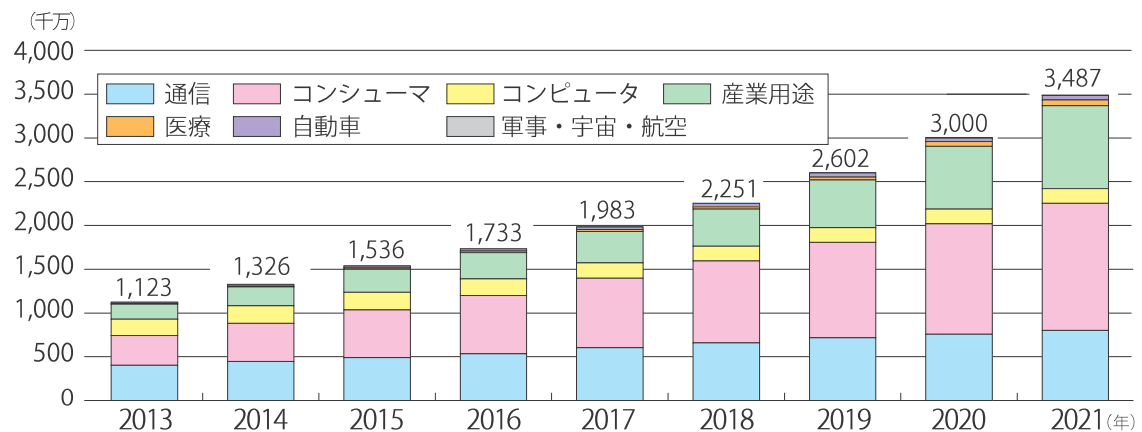
出典：IPCC第5次評価報告書

## 増加していく世界の食料需要



出典：United Nations Population Fund, FAO「World agriculture towards 2030/2050」

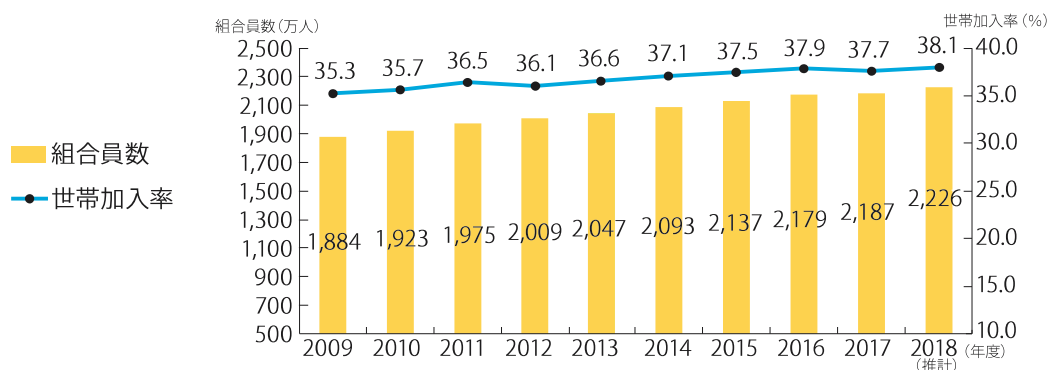
## インターネットにつながるモノ (IoT) の増加



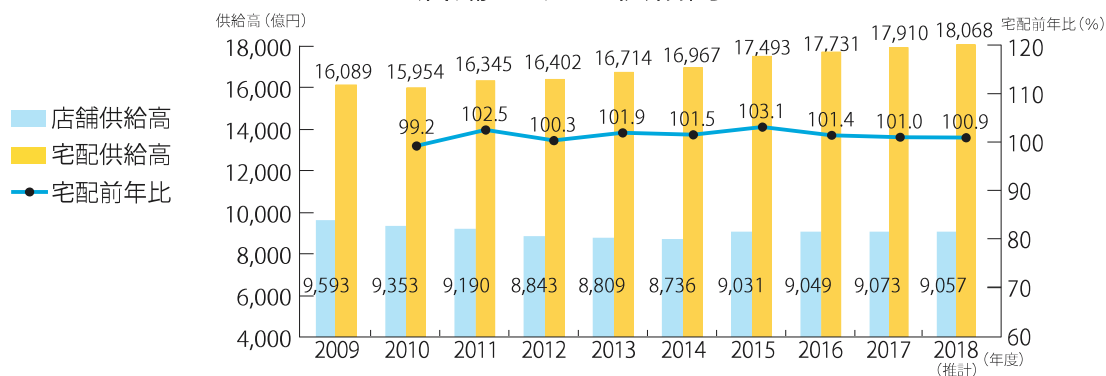
出典：IHS Technology

# 生協のいま

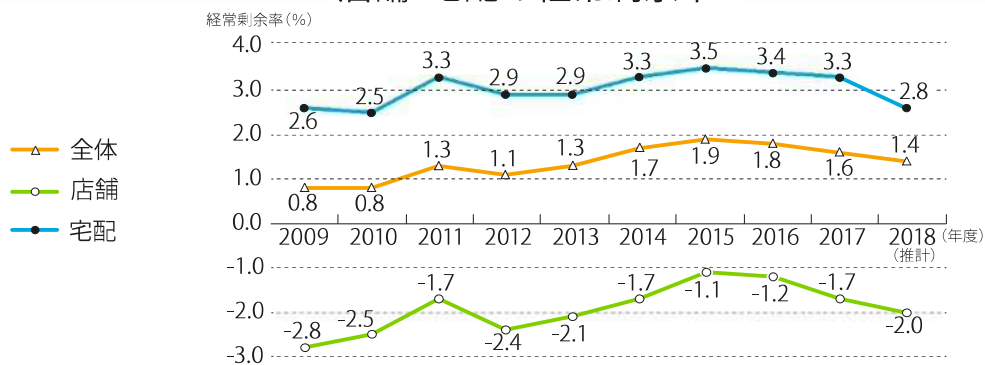
## 組合員数と世帯加入率



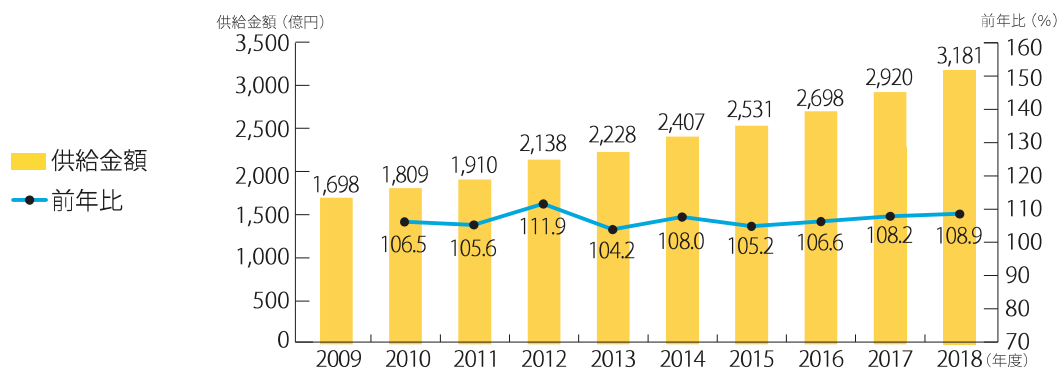
## 店舗・宅配の供給高



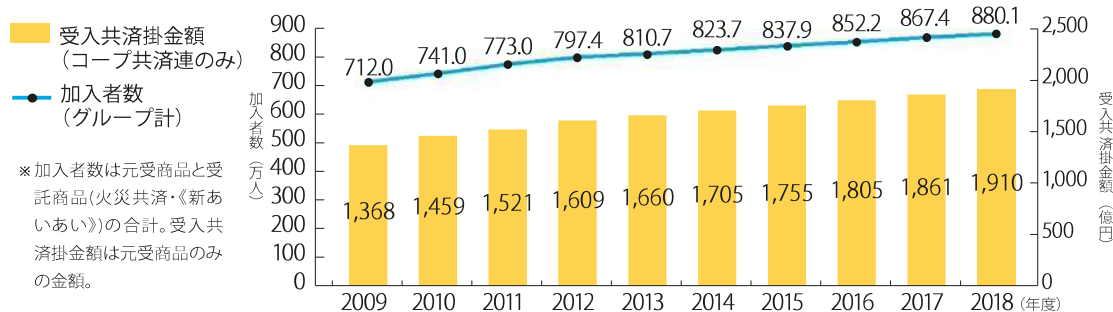
## 店舗・宅配の経常剰余率



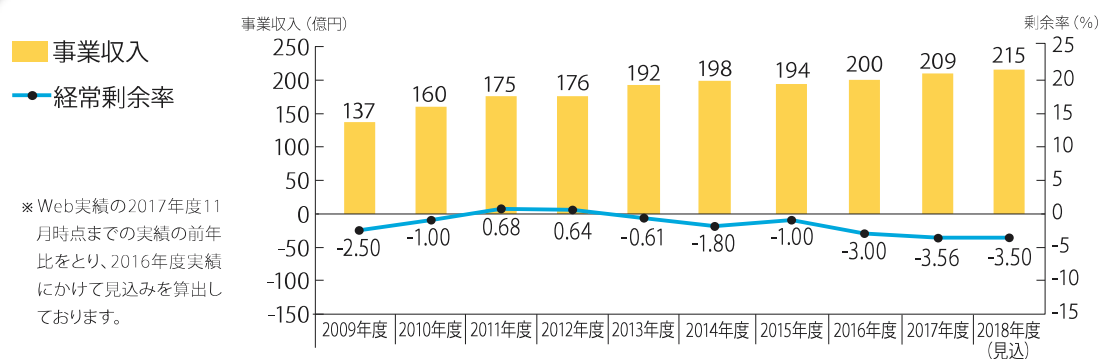
## 宅配事業のインターネット供給金額



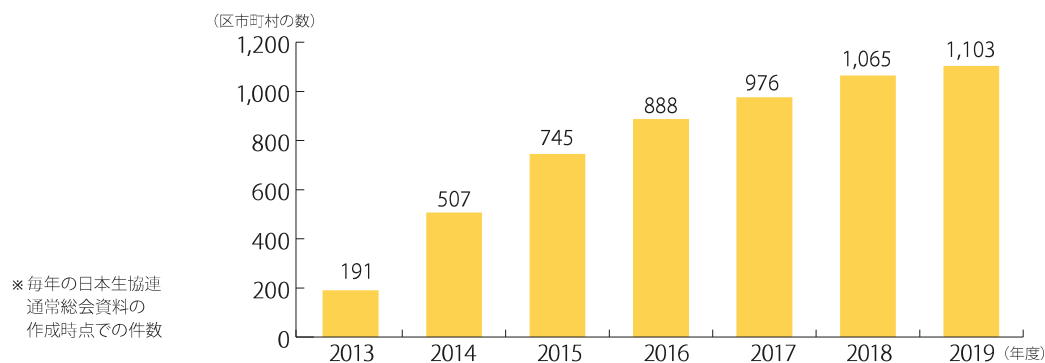
## CO・OP共済 加入者数・受入共済掛金額



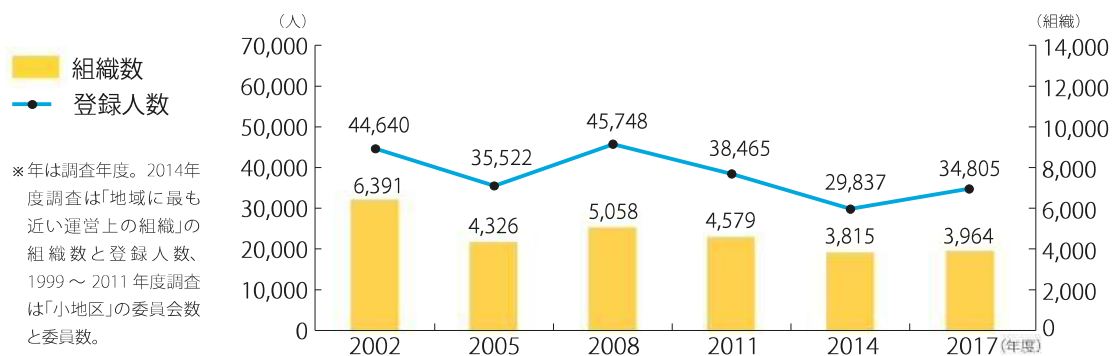
## 福祉事業の事業収入・経常剰余率



## 地域の見守り協定などの締結状況



## 運営に参加している組合員数



**表** 紙に描かれたイメージは、2030年ビジョン検討委員会での話し合いの中から生まれたものです。2019年4月17日の委員会では、「ビジョンをビジュアルで表現すると？」をテーマに、イメージを語り合いながらかたちにしました。

2030年ビジョン検討委員会では、  
こんなイメージを描きました。  
みなさんは、  
どんな2030年をイメージしますか？

ビジョン  
検討委員会の  
様子

